

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 1	「学び合う学び」を支える教員研修の実施	施策1	学校教育課	1 ～ 2	○これまでの成果と課題をもとに、「学び合う学び」を土台にして「探究的な活動」の充実を図ってください。児童生徒一人ひとりへの理解を深め、すべての児童生徒が、「学んでみたい」「学んでよかった」と実感できるよう、今後も授業研究や教員研修の充実に取り組んでください。 ○研修の種類や内容は非常に充実しており、多くの教員が参加している点は評価できます。ただし、形式的な受講に留まらず、実践的な学びへとつながる内容の工夫が今後の課題です。特にICTの活用に係る研修について、さらに充実させていく必要があります。
	I C Tを活用した学びの充実	施策3	学校教育 I C T推進室	3 ～ 4	○ICTをの活用した学習は随分と広がってきているようですが、小学校と中学校との間での開きがある様です。児童生徒一人ひとりへの支援や、校務DX化に取り組むとともに、授業での学びの質を高めるためのICTの活用について、教員間・学校間での格差が拡大しない様に、教員同士の学び合い（教員研修・授業研究）の充実に取り組んでください。 ○不登校及び別室登校児童生徒等の学習支援や相談への活用推進はとてもよいと思います。 ○ICTの活用率が年々向上しており、生徒の主体的な学びを促進している点は高く評価できます。今後は、不登校支援や校務DXなどへの展開が期待されます。 ○タブレットを活用した授業がわかりやすいと感じた児童生徒の割合の増加はいい状況です。 ○児童生徒の学習支援や相談、また教員の校務効率化においてDX化は賛成です。一方で、クラウドツールの利用に踏まえた保護者側のITリテラシー向上も必要だと感じます。
	学校生活サポーターの配置	施策4	学校教育課	5	○特別支援学級に在籍する児童・生徒が増加しており、より一層一人ひとりに寄り添った教育の重要性が増していると言えます。インクルーシブ教育の理念に基づき、通常の学級においても学びやすい環境づくりが求められます。通常の学級と特別支援学級が校内で分離しないよう、交流及び共同学習の充実が求めれます。そのためには、さらなる学校生活サポーターの増員など、必要な対策を続けてください。 ○特別支援級児童生徒の増加に学校生活サポーターの増員が追い付いていないと感じるため、10人に対して1人ぐらいの基準で充実させてください。 ○支援員の配置数の増加と定期的な研修の実施は効果的であり、学校現場の支援体制の強化につながっています。今後は、より専門的な対応ができるような体制整備が求められます。 ○在籍する児童生徒数が減少している中でも、特別支援の学級数が増加していますが、これは、きめ細かな特別支援教育という視点を尊重しているからだと思っています。そこには、「1人ひとり」という「教育の原点」があると考えています。今後も、その視点が尊重されて、そのことが学校教育の原点としてあり続けて欲しいと願っています。 ○特別支援学級の学級数が増加しているため、学校生活サポーターへの負担も増加していると感じます。
	必要に応じた語学相談員の配置	施策5	学校教育課	6 ～ 7	○言葉の壁が、学習の障壁や仲間づくりの障壁にならないよう、一層の支援が求められます。日本語が十分ではないため、学び合いができないという発想ではなく、むしろ学び合いや人間関係づくりを通して、学習や言葉の壁を低くできるようなアプローチや、将来の夢や展望を描くことができる機会を充実させてください。 ○市民活動や民間の動きとも連動・協働して、包括的な支援体制の構築を目指してください。 ○親の都合で日本に来た外国籍の児童生徒が、日本語教育を十分理解できないがために日本社会にうまく適応できず、不本意な生活を送ってしまうことが心配されます。 ○語学相談員の増員だけでなく、様々な関係機関との連携し、十分な対応を望みます。 ○人口減少が進む中、日本に来た外国人児童生徒が日本になじみ、有意義な生活が送れることを願っています。 ○多言語対応の体制が整いつつあり、日本語初期教室との連携も良好である点が評価できます。今後は、利用者数の増加に対応できる安定的な人員確保が課題となります。 ○外国にルーツのある児童生徒の日本語習得や文化への理解は必要不可欠ですが、「らしさ」の消失につながるような指導にならないよう注意していただきたいです。母国との違いをしっかりと理解しつつ、児童生徒が「自分らしく」歩めることが大切です。また、今後、外国人児童生徒の増加にあたり、各言語の語学相談員を随時増やす必要性があると考えます。日本語検定をはじめ、スペイン語やベトナム語など主要言語取得費用の補助を市で検討されるなど、誰一人取り残さない支援につなげていって欲しいです。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 2	児童生徒の心のケアの実施	施策 6	学校教育課	8	○スクールソーシャルワーカーについては、年々訪問回数が増加しており、また増員の構想もある様ですが、好転件数、支援中のケースの件数の推移などから支援がゆきとどいているかの把握に努め、充実を図っていただきます。 ○施策11とも関連することですが、家庭環境の格差により、子どもたちが平等に望ましい教育が受けられない状況が見受けられることは残念なことです。スクールソーシャルワーカーの増員とともに、学校・担任等の連携を図り、少しでも多くの子どもたちを支援できるようにしてほしいです。 ○スクールソーシャルワーカーの活動実績が年々拡大しており、学校との連携も深まっていることを高く評価します。複雑化する家庭環境への対応には、さらなる連携強化が必要です。 ○欠席や不登校などの要因として、様々な家庭環境が挙げられます。校内組織を基盤として、関係団体や関係組織と連携することで様々な対策が取り組まれることになりますが、その場合に、プライバシーの問題に直面することが多くあります。過去においては、「法治国家として法律に抵触することは」などという一言で済まされる傾向が多かったことも記憶しています。 「そうだから、できない」ではなくて、「何処までなら、できるか」という発想が、子どもたちの将来を展望することになると思っているため、その視点を崩さない協議のあり方に期待しています。（貧困・ネグレクト・ヤングケアラーなど） ○不登校の未然防止を図るよりも、まずは、その原因究明と学校・家庭・地域との連携により包括的な支援対策を強化する方が重要だと考えます。
	施設配本サービスの実施	施策 8	図書館	9	○小規模保育事業所を配本登録団体の対象としたことにより、配本貸出点数が増加しており、施策の効果が表れています。今後も充実を図ってください。 ○小規模保育事業所への配本対象の拡充は有意義であり、貸出数の増加も評価できます。継続のために、多様な資料需要への対応力が必要と考えます。 ○配本サービスはこどもの成長には必要なため、より充実させてほしいです。 ○生徒児童の学習力向上に向けた施設配本サービスがあるのはとても評価します。資料不足などの課題については、古本買取事業者など民間企業との連携も有効だと思います。
	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導	施策 10	学校給食課	10 ～ 11	○カリキュラム・マネジメントの視点から、給食や各教科等を関連づけた食育の充実に、今後取り組んでください。 ○物価高の昨今、給食費の価格や給食の質の維持には優先的に取り組んでください。 ○地元食材の活用やアレルギー対応など、多様な食育活動が行われている点は先進的であり評価に値します。人的資源の制約に対して、ICTなどの補完策を検討すべきです。 ○「食育」に関しては、各家庭での日常の食生活の改善が大きく関わっていると思っています。「望ましい食生活」という視点は必要なことですが、同時に「現状からの一部分改善」という視点（ワード）も必要であると感じています。 ○給食試食会を定期的を実施し、児童生徒だけではなく、保護者も給食への理解を深める必要があると思います。 ○食に関する指導について、食育指導を行うレストラン経営者や自然農法を行う農家などの民間事業者へ協力を依頼するなど、少しでも栄養教諭や教職員の負担軽減につながることを期待します。アレルギー対策は保護者側の食に対する意識改革も必要なため、親子で食に関する正しい知識を学ぶ機会も今後増えていくことを期待します。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 3	児童生徒に対する学習支援の実施	施策 1 1	こども政策課	12 ～ 14	○入塾時期の工夫や説明会・体験会の導入などにより、参加人数も増えているとのことですので、これからも充実を図ってってください。 ○こどもの貧困や家庭環境の格差などが叫ばれる今日、様々な地域での「駒来塾」の開設による多くのこどもたちを救う事業は素晴らしいことだと思いますが、様々な家庭による違いから参加できない生徒もいると思います。一人でも多くのこどもたちを支援できる対策の充実を願います。 ○個々の生徒に応じた学習支援が丁寧に行われており、参加者の満足度も高いことがうかがえます。今後は支援人材の安定的な確保が重要な課題です。 ○とてもいい取組のため、継続してください。 ○生徒による学習支援は生徒自身の学習意欲や自己受容につながるため今後も継続的に実施して欲しいです。
	こども夢・チャレンジ事業の展開	施策 1 3	こども政策課	15 ～ 18	○「高校生等社会参画事業」を通して、地域の課題に若者の視点から解決に取り組むことに期待しています。 ○④夢にチャレンジ助成金支給事業、⑤大学生等海外留学奨学金支給事業については、小牧市内の各学校へのチラシ配布など積極的な広報周知が必要と考えます。 ○多様な事業展開がなされており、その理念は大変意義深いものです。ただし、応募率の低い事業もあるため、広報活動の工夫が必要です。 ○市制70周年記念式典に参加して、こどもたちがその運営に深く関わっていたことを知りました。子どもが様々な活動に進んで参加することに期待しながら、こどもたちの主権者としての意識の高揚を図り、将来の責任ある大人としての自覚を促すことが大切だと思っています。「こどもの夢を育む」という事は、単に個人的な事だけではなく、地域全体（市・県・国）の発展にも大きく関わることだと思っています。 今後、市全体の取組を通して「こどもの夢」という視点（ワード）を貫いて欲しいと思っています。 ○子ども達が自身の夢に向かってチャレンジし続けるには、伴走型支援が必要だと考えます。他市ではフリーランスや個人事業主、企業が市と連携した取り組みを行っているところもあるため、より幅広い大人との交流や体験を通じてこども達の社会性育成に励んでいってもらえると有難いです。
	学校施設の改修	施策 1 4	教育総務課	19	○今後も緊急度の高い老朽化への対応を計画的に進めてください。また、こどもや市民との対話を大切にしてください。 ○令和7年度に予定されている市内全校の体育館にエアコンを設置する計画は、大変素晴らしいことだと思います。最近の異常気象や気候変動により、いわゆる夏の時期が大きく様変わりしており、学校での熱中症対策、地域の避難所としても大変有効であると思います。 ○市民意見を反映しながら進められている点は高く評価できます。改修期間中の児童の安全確保と教育環境の維持が課題です。 ○米野小学校の改築工事期間中は、その都度、学校や地域などの意見を反映できる仕組みがあるといいです。
	ＩＣＴ機器の整備・充実	施策 1 4	学校教育ＩＣＴ推進室	20 ～ 21	○円滑に機器の更新を進め、授業に支障のないようにお願いします。 ○機器の更新が計画的に実施されており、教育現場でのICT環境の維持に貢献しております。今後はクラウド化への対応準備が重要となります。 ○不正アクセスや情報漏洩に留意しつつ、校務効率化及び教職員の負担軽減につながるよう引き続き進めていただきたい取り組みです。
	新たな学校づくり推進事業	施策 1 4	教育総務課	22 ～ 23	○児童生徒・保護者・地域住民との対話を重視してください。 ○一方的な説明にならないように、市民の声に応答しながら進めてください。 ○市民参加型で丁寧に進められている点は高く評価できます。学校再編にあたっては、説明責任を果たしながら合意形成を進める必要があります。 ○新設校を開校する場合は、学校区の設定について地区説明会などを通した関係地区の住民や保護者の納得感が不可欠です。同様に、学校再編についても時を急ぎ過ぎることなく慎重に対応していただきたいと切望しています。 ○少子高齢化が進む地域では、学校閉校にともない子育て世代の減少や地域コミュニティも失われる懸念があります。そのため新たな学校づくりと共に、新たな地域づくりについても住民の方々と十分に対話を重ねていただきたいです。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 4	教育・保育の質の向上	施策 1 6	幼児教育・保育課	24 ～ 25	○中央教育審議会の諮問をもとに、小牧市が目指す15歳の姿を想定し、幼稚園・保育園・小学校・中学校の教員・保育士が学びあったことは素晴らしいと思います。このような機会を今後も続けてください。 ○保育園の民営化が進む中、幼稚園教育や保育の質の向上に市がどのように関わっていくのか、やや不安を感じます。 ○公開保育や研修を通じた連携強化の姿勢は評価できます。今後は、より実践的な連携の在り方が求められます。 ○成長や発達段階に応じてこどものしつけや教育の内容は深化します。幼・保・こども園・小中学校の連携については、可能な限りの関係機関との情報の共有から始まると思っています。プライバシーの問題で関わり方の限界を判断するのではなく、当事者としての子どもたちの将来を考える中での解決可能な視点をさぐり当てて、協議を深めていただきたいと思います。 ○自主的・主体的な学びを深める上でとても評価できる取り組みだと思います。ぜひ児童生徒や教員だけではなく、保護者にも、教えながら共に育つ「教&共育」へとつなげていただきたいと思います。
	放課後子ども総合プラン	施策 1 8	こども政策課	26 ～ 28	○こども・保護者の意見をもとに、実施体制の充実を続けてください。 ○どのような配慮が求められているのかのニーズを把握整理し、付加していくべきスタッフの専門性について議論を進めてください。 ○地域の中には、現役時代に様々な才能・技術を有していた人材が多くいます。そうした人材を発掘し、放課後こども教室に招聘し、リタイヤ後も地域で有効活用できる取り組みを期待します。 ○全校実施に至った点は大きな成果であり、多様な活動内容も評価できます。支援員の確保と専門性向上が課題です。 ○市内の全小学校において、放課後こども教室と児童クラブが共通プログラムで実施されるようになったことは、望ましい方向性だと思います。放課後のこどもたちの過ごし方は多様ですが、その大きな選択肢の一つとして本事業が広く定着することに期待しています。 ○ぜひ継続してください。ただし、スタッフ等の負担が増えないようにしていただきたいと思います。 ○共働き世帯にとっては家庭以外で交流や学びがある場はとてもありがたいです。コーディネーターさんや地域住民の方々、PTAなど時間的余裕のある保護者の方、団体からの協力、地元企業との連携など、より多くの子ども達が参加できるよう整備を進めていただけると嬉しいです。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 5	市民講座の実施	施策 2 1	文化・スポーツ課 味岡・東部・北里 市民センター	29 ～ 31	○若い方の参加を増やす工夫を、今後お願いします。 ○各講座ごと、ジャンルごとのキャンセル率を算定し、今後の定員設定などに活かしてください。 ○講座の多様性と市民参加型の構成は好ましく、学びの場としての価値が高いです。学びの成果を地域に還元する工夫が必要です。 ○地域のサロン活動は、自主的で気軽な活動として市内全域に広がってます。また、多くの市民活動団体の活動や生涯学習団体の活動、さらにはスポーツ振興会、地域協議会のような地域の組織的な活動などもあります。それらの活動を総合的に捉えて、高齢者に限らず生きがいを求めて生活する人たちのニーズに対応するために、行政の横断的視点の中で、幅広い市民活動の選択肢が得られるような仕組み作りがあるといいと思っています。 ○子育てや若年層世代のニーズを把握し、より幅広い層の方に参加いただける企画を充実させてください。気軽に受講できるという考えで申込みする方も多いと思いますので、講座によっては事前支払いによるキャンセル規定を設けることなど対策が必要だと考えます。
	公民館等の生涯学習施設の環境整備	施策 2 1	文化・スポーツ課 味岡・東部・北里 市民センター	32 ～ 33	○計画的に施設の整備への取り組みをお願いします。 ○計画的に改修が進められており、安全性・利便性の向上に寄与しています。利用者の声を継続的に反映する仕組みが必要です。 ○継続して取り組んでください。
	生涯学習を推進する人材育成講座の開催	施策 2 2	文化・スポーツ課	34	○コミュニケーションやファシリテーショングラフィックは、関心が高いテーマだと思います。生涯学習活動に取り組んでみようという方を後押しする支援を今後も続けてください。 ○地域ニーズに沿った内容で、受講者の満足度も高いと推察されます。受講後の活動支援体制の充実が求められます。 ○引き続き市民が個人の専門性やスキルを活かせる機会として参加者拡大に向けた取り組みをお願いします。講座以外にも、個人や団体、企業などが必要なときに依頼できるよう、人材バンクとして窓口があると利用しやすくなると思います。
	電子図書館の充実	施策 2 3	図書館	35	○図書館に来館しにくい方にとっては電子図書館は本に触れる重要な機会になります。今後の拡大を期待します。 ○学校の探求学習での活用なども見据えて学校や子どもなどへの周知も行ってください。 ○特集展示など利用促進に向けた工夫が見られます。今後は蔵書数の拡充と高齢者への支援が課題となります。 ○課題にもあるように、スマートフォン等の利用に馴染みのない高齢者を中心とした利用者層にも、電子図書館を利用していただけるような取り組みに期待します。
	こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携	施策 2 4	文化・スポーツ課	36	○多世代交流の実現に貢献しており、施設の活用度も高いと評価できます。若年層の利用促進が望まれます。 ○少人数で結成している団体は人手不足で活動内容や時間に制限があったり、資金調達の課題を抱えていたりするため、同じ活動内容の団体同士が情報を交換し合ったり互いに助け合える機会が増えるようサポートが必要だと考えます。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 6	スポーツ教室の開催	施策 2 5	文化・スポーツ課	37 ～ 38	○市民が気軽にスポーツに親しめるような機会を増やしてください。 ○健康増進と交流促進に大きく貢献しており、世代を超えた取り組みとして評価できます。講師や運営の持続可能性に配慮が必要です。 ○健康増進のためにスポーツを取り入れることの必要性は理解しても、活動の実態が伴っていないというデータがあります。組織や団体での活動ではなく、気軽に個人的な活動を好む傾向は、健康志向の中でも同様に、民間の健康維持増進施設やスポーツ関係施設が増加傾向にあるのはその証明であると思います。集約が困難であっても、小牧市ウォーキングアプリ「a l k o」への登録者や一般市民への意識調査などを通して、日常のライフスタイルの中での健康意識の状況把握をすることも必要であると思います。 ○各小中学校で実施しているスポーツ教室を、広く情報発信を行い、周知していく必要があります。
	こども対象のスポーツ教室の開催	施策 2 6	文化・スポーツ課	39 ～ 40	○地域部活動への接続・協働も模索してください。 ○こどもたちが運動を楽しみながら健やかに育つための貴重な機会を提供している点を高く評価します。今後は、指導者確保や継続的な参加につながる工夫が求められます。 ○こどもだけではなく、親子で参加出来る内容がさらに充実すれば、参加者が増加すると思います。 ○以前と比べて、各学校の部活動が減少していますが、ジュニアスポーツに参加しないこどもも増えていると感じています。指導者育成など人材確保は早めに対策していただきたいです。
	地域部活動の検討	施策 2 6	学校教育課 文化・スポーツ課	41 ～ 42	○学校部活動の地域連携・地域展開を進めるにあたり、効果・課題を、児童生徒の立場、教員の立場、地域の立場から検証し、ノウハウやベストプラクティスの蓄積や共有が求められます。 ○指導者の質の確保、保護者負担の軽減、児童生徒の安全管理の観点を特に重視してください。 ○モデル校での試行を通じた丁寧な導入が見られ、今後の全市的展開に期待が持てます。地域連携の体制整備が鍵となります。 ○働き方改革を契機として、特に、中学校部活動の今後のあり方が具体的に示されています。定着するまでには、様々な多くの課題が多くあると思いますが、従来の学校部活動の位置づけやその考え方を改めることを通して、地域で支える部活動として子どもたちの活動欲求に対応した体制が定着することを期待します。 ○小中学校の部活は教員だけではなく、外部の指導者等と連携することで、教員の負担が軽減することを期待します。
	パークアリーナ小牧などを活用した大会等の誘致	施策 2 7	文化・スポーツ課	43 ～ 45	○国内トップレベルの試合を市民が観戦できる機会が提供されており、スポーツへの関心の高まりが期待できる事業であると評価します。アジア競技大会に向けた継続的な広報や市民参加型の企画強化が求められます。 ○令和8年度に迫ったアジア競技大会は、本市ではバレーボール競技が開催されます。その中で、現在大会開催の広報活動やボランティア募集などの諸準備が進められています。今後、大会開催の認知度を高めることを始めとして、大会の盛り上げりに期待しています。
	スポーツ施設の環境整備	施策 2 8	文化・スポーツ課	46	○計画的に施設の環境整備を遂行してください。 ○バリアフリー化や空調・設備更新が着実に進められており、安全で快適な利用環境づくりが評価できます。

基本 目標	具体的な取組	施策	担当課	ページ数	評価委員の意見等
基本 目標 7	身近で良質な鑑賞機会の充実	施策 2 9	文化・スポーツ課	47 ～ 48	○小牧市のような中堅都市で美術館やオーケストラを持つのは特筆できることです。また、小中学校への巡回訪問をしていることも素晴らしいことです。 ○多彩な公演が身近な場所で行われており、市民にとって文化芸術への接触機会が広がっている点を高く評価します。今後は幅広い年齢層へのアプローチと情報発信の工夫が求められます。 ○今後も継続的な活動をお願いします。
	こどもを対象とした文化事業の実施	施策 2 9	文化・スポーツ課	49 ～ 51	○こどもたちに向けた多彩な文化体験の提供は、豊かな感性を育む貴重な機会となっており、非常に意義のある取り組みであると評価します。今後は継続性を持たせるための地域連携や周知の工夫が求められます。 ○この項目に限ったことではありませんが、限られた事業予算の中でも「こども夢・チャレンジNo.1 都市宣言」にふさわしい事業にしていただきたいため、文化・スポーツ・芸能・研究開発・探検・海外協力関係者など、幅広い分野での人選を希望します。 ○今後も継続的な活動をお願いします。
	市民文化活動への支援	施策 3 1	文化・スポーツ課	52	○市民活動団体と市民文化団体との特性の違いや棲み分けなどを市民発信し、該当する市民活動団体への直接的な勧誘も考えられます。 ○フェスティバルなどを通じて、多くの市民に発表機会を提供している点は評価できます。今後は団体の世代交代や新規参加者の掘り起こしが課題です。 ○文化協会などの組織的活動の範疇ではなくても、自己の欲求が叶えられる状態であれば、個々で生涯学ぶことはできていると思っています。生涯学習は、様々な市民のニーズに対応することが求められ、さらに幅広い生涯学習の枠組みや受け皿が必要になると考えられます。
	文化財団の活動支援	施策 3 2	文化・スポーツ課	53 ～ 54	○専門性を活かした活動が展開されており、事業の幅が広がっていることは高く評価できます。財源と人材の安定確保が求められます。 ○メナード美術館のワークショップに参加させていただきましたが、とても楽しかったです。 ○市民が芸術という幅広い分野における様々な作品に触れる機会を増やすと共に、アーティストの方々の活動支援に対しても、引き続き取り組みを期待します。
基本 目標 8	文化財の指定・保護	施策 3 3	文化財課	55	○地域に残る貴重な文化財の調査が丁寧に行われており、将来の保存に向けた基礎的な取り組みとして評価できます。今後は調査対象の拡充と市民への周知活動の強化が望まれます。
	古文書・歴史に関する講座等の開催	施策 3 4	文化財課	56 ～ 60	○古文書の講座に参加するこどもが増加していることは、とてもいい傾向です。小牧の歴史・文化を幅広く発信する機会を継続してください。 ○メディアとの関連付けは、積極的に行っていただきたいです。 ○地域の歴史を深く知るきっかけとして講座が効果的に実施されており、来場者も安定しています。成果の発信や継続的な学びへの支援が望まれます。 ○市民以外でも小牧市に愛着を持ってもらえるような講座や展示会など、今後どのような企画が生まれるのか楽しみにしています。
	史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進	施策 3 5	小牧山課	61	○石垣の復元や発掘調査が着実に進められており、現地説明会などで市民理解を深めている点が評価できます。整備と発信の両立に今後も努めていただきたいです。
	史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発	施策 3 5	小牧山課	62 ～ 64	○展示や体験型講座の工夫が見られ、地域の歴史資源を活かした啓発活動として評価できます。デジタル化や外国語対応の強化が望まれます。 ○SNSの利用なども含め、講座やイベント以外に小牧山の歴史的価値や魅力の伝達方法の工夫が必要だと思います。